

list6.txt

入力: 上記のOLEDの場合はどうなりますか？

GPT:

OLEDドライバを使用する場合、依存関係やリンクが必要になるライブラリが異なる場合があります。ただし、SSD1306用の特別なライブラリを使用していない場合(つまり、直接のbit-bangやI2CコマンドでOLEDを制御している場合)、基本的な'CMakeLists.txt'は上記のもので十分です。

もし外部ライブラリを使用する場合、それをインクルード・リンクする必要があります。この例では、それを考慮していません。

以下はOLEDのプログラムに適用したCMakeLists.txtのサンプルです。

```
cmake_minimum_required(VERSION 3.12)

# 名前をあなたのプロジェクトに合わせて変更してください。
project(oled_display C CXX ASM)

set(CMAKE_C_STANDARD 11)
set(CMAKE_CXX_STANDARD 17)

include(pico_sdk_import.cmake)

# 必要なPicoライブラリを追加します。
add_executable(oled_display
    oled_program.c
)

# ライブラリとのリンクを指定
target_link_libraries(oled_display pico_stdlib hardware_i2c)

pico_enable_stdio_usb(oled_display 1)
pico_enable_stdio_uart(oled_display 0)

pico_add_extra_outputs(oled_display)

# UF2ファイルを生成(Raspberry Pi Picoに直接ドラッグ&ドロップするためのファイル形式)
pico_set_program_name(oled_display "OLED Display Example")
pico_set_program_version(oled_display "0.1")

pico_set_program_url(oled_display "https://example.com")
```

この'CMakeLists.txt'は上記の基本的なテンプレートを使用し、'project'の名前や'add\_executable'のソースファイル名を適切に変更しています。プログラムの名称や他の設定は、あなたのニーズに合わせて変更してください。